

災害とデジタルアーカイブ ～ クラウドの視点から ～



株式会社IIJイノベーションインスティテュート

新 麗

ray@ijlab.net

- コンピューティング資源を「所有」から「利用」へ
 - ◆ ネットワーク
 - ◆ サーバ
 - ◆ ストレージ
 - ◆ アプリケーション
 - ◆ サービス
- 特徴的な機能
 - ◆ 必要に合わせて自動的に利用できる
 - ◆ いろいろなプラットフォームから利用できる
 - ◆ サーバやストレージの設置場所は意識しない
 - ◆ 必要に合わせてリソースの拡大・縮小が可能
 - ◆ 計測によるリソースの最適化とその状況がわかる

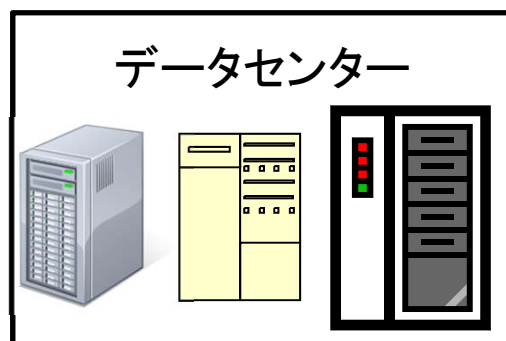
■ これまでのシステム

- ◆ 各組織のニーズに合わせて構築
- ◆ カスタマイズ
- ◆ ニーズに合わせてサポート



■ クラウドシステム

- ◆ サービス事業者が提供するサービスを選択する



■ メリット

- ◆ 導入コストが安い
- ◆ ハードウェア運用は必要ない
- ◆ 機器の更新が容易

■ デメリット

- ◆ 機能に制約がある場合が多い
- ◆ データを外に置くことへのリスク
- ◆ 障害時に対応できる範囲が限られる

- 設備上の余剰リソースの提供が可能
- 被災地
 - ◆ 電力・ネットワークインフラが被害を受けた地域には無力
 - ◆ 情報発信サイトの負荷対策支援
- 被災地外
 - ◆ インターネットの全停止はなかった
 - ◆ インターネットによる情報交換
- 計画停電地域

クラウドは災害に強いのか？

- クラウドシステムは耐障害性を考慮して設計しているため、サービスの継続性は高い
- システムが巨大で共有部分が多いため、障害によっては影響範囲が広い

- デジタルアーカイブサービスの充実が必要
- 定型化・共有化には有利

